掲載日:2006年12月28日,面名:EA0XX0,記事ID:K20061228EA0XX0050
(C)河北新報社

街おこしへ市民の翼

角田 有志がグライダー購入

空に親しむ拠点目指す

まちおこしに活用しようと、角田市民の有志が購入したグライダーの安全祈願祭＝16日、角田滑空場

「グライダーによるまちおこし」を掲げる角田市の市民団体「スカイネット角田」（佐藤忠義代表理事）の会員有志がこのほど、グライダーを共同購入し、市内の阿武隈川河川敷にある角田滑空場で初飛行を行った。出資した会員は約十人で、ほとんどが操縦免許を持たない一般市民。「まちおこしのために、免許のない市民がグライダーを買うというのは非常に珍しい」と航空関係者も驚いている。

スカイネットは、同滑空場を利用していた宮城県内の航空関係者と、まちおこしの素材としてグライダーに着目した市民が手を結び、二〇〇四年に結成。毎年十月に国内唯一というグライダーの曲技飛行大会を開催してきた。

大会に使用する機体はレンタルで賄っていたが、今回、格安の売り物が見つかったため、会員に出資を募った。

購入したのは曲技飛行用に開発されたポーランド製の「MDM―1 FOX」。二人乗りで高さ二・二五メートル、全長七・三八メートル。最高速度は時速三百キロ近く、曲技の世界大会で活躍する最高レベルの機体という。新品では一千万円以上するが、米国の個人がインターネット上で売りに出していた一九九七年製の中古機を約六百万円で購入。関税などを含めると約七百三十万円に上り、一人当たり二百万―十万円を負担した。

操縦免許はないが、出資した一人である市内の会社役員古積伊知郎さん(四五)は「グライダーは空を羽ばたく明るいイメージがある。ほかの街にはない魅力的な素材で、購入を機に具体的なまちおこしにつなげていきたい」と話す。

スカイネットは、地域振興に絡めた将来構想として①航空公園の整備②航空学校の開設③航空関連研究施設や企業の誘致―などを掲げて活動している。今後、曲技飛行大会開催だけでなく、体験飛行の実施回数を増やすなどして、市民が「空に親しむ」機会を増やしていく考えだ。

県航空協会専務理事の大友宏之さん(六二)は「愛好家ではない市民が機体を所有するというのは、世界でも例がないと思う。スカイスポーツ普及へ大きな味方になる」と歓迎している。

阿武隈川上空を初フライトするグライダー

自分だけの年賀

手すき和紙 親子

手すき和紙による年賀状作りを体験しようと、親子美術教室が横手市の秋田県立近代美術館で開かれた。小学生と父母ら十三人が参加し、創意を凝らしたオリジナルの年賀状に挑戦した。